

科目名	キャリアデザインA		科目ナンバリング	L-CUCA9-00. H	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B54017		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	必修	担当者名	馬上 達幸、石戸谷 繁、 スティーブン・マックウィニー			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>社会において幅広い活躍の場を持つ文学部の学生が、1年次より将来に対するビジョンを持つための第一歩とする「ヒロガク教養講話」と講義（集中）で進めていく。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	自らの将来について自分自身でキャリアデザインをしていくために、視野を拓け、必要な知識や技術を獲得する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			この授業の受け方について説明する。(4月11日11:15~)						
第2回	ヒロガク教養講話、特別講話 (計13回分)			ヒロガク教養講話(木曜日11:15~12:00)、 特別講話を聴講する(詳細日程は別紙参照)						
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回	「自立するとは」			私たちが「自立」する一人の人間として生きるうえで大切なことを「役割」の視点から考える。					4/19 石戸谷(集中)	
第12回	「自分らしく生きる」			(事例)ある少女の生き方から、「生きること、学ぶこと、働くこと」の意味を考える。					4/19 石戸谷(集中)	
第13回	大学時代をどう生きるか			大学の現状と課題を理解し、学生時代に身に着けるべき事柄や学生が被害に遭うネット詐欺等の対策を会得し充実した学生生活を送る糧とする。					5/17 馬上(集中)	
第14回	人生100年時代の働き方展望			現代の多様化した働き方や直面している課題を理解し、それらを主体的に選択して今後望まれる働き方、生き方を探求できるようにする。					5/17 馬上(集中)	
第15回	まとめ								集中	
授業方法(ゼミナール、PBL、アクティブラーニング等)	まとめアクティビティ	授業中のノート取り	リフレクションシート							
評価方法及び評価基準	ヒロガク教養講話の聴講・感想(40%)集中授業への参加度、レポートの作成(60%)									
課題等	ヒロガク教養講話での感想、授業終了後に提示されるレポート									
事前事後学修	週90分程度の時間を使い、事前事後に講師のプロフィールや所属する事業所のことなどを調べる。									
教材教科書参考書	なし。									
留意点	11回~15回の授業として実施する。単位修得には全日程の出席を必須とする。授業はオンデマンド形式で行われる可能性がある。その場合は、事前に通知する。									

科目名	キャリアデザインB		科目ナンバリング	L-CUCA9-01. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目コード	B54018	30時間							
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	スティーブン・マックウィニー			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 社会において幅広い活躍の場を持つ文学部の学生が、自分自身の大学生活や職業人生、キャリアについて、自らが主体となって構想し、実現していくために、社会の動きを学びながら自分の将来像を明確にする。そして自らの持つ能力を活かすキャリアデザインの形成を進めていく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	自らの将来について自分自身でキャリアデザインをしていくために、視野を拡げ、必要な知識や技術を獲得する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		講義内容と文学部学生の就職状況							
第2回	キャリアビジョンの構築①		適性診断MATCHplus受検会／大学生生活の過ごし方							
第3回	自己分析①		性格検査を使って自分の特徴・強みを知ろう							
第4回	自己分析②		はたらくことを考える／モチベーショングラフの作成							
第5回	キャリアビジョンの構築②		社会にあるしごとを知る／働く目的軸を考える							
第6回	自己分析③		ガクチカAIアシストを使って経験を言語化する							
第7回	社会人のマナー		大学生活で身につけるマナー／アルバイトやサークルを通して社会力を身につける							
第8回	自己分析④		キャリアタスクエストを活用した自己分析とグループワーク							
第9回	業界・企業研究②		業界と企業の情報収集／情報収集の重要性と方法を知る							
第10回	業界・企業研究③		企業研究ワーク／企業の情報を集めて発表するGD							
第11回	業界・企業研究④		GDワークショップ							
第12回	アントレプレナーシップ講座		企業事例から世の中の課題を見つけ解決策を考える							
第13回	本学で取得できる資格と留学について		資格を取ることで広がる選択肢について/留学という選択肢について考える。							
第14回	本学で取得できる資格について		資格を取ることで広がる選択肢について考える。							
第15回	自己分析(実践)		コミュニケーションカ+プレゼンテーションカ養成講座							
授業方法(オンデマンド・7対1ブレンド等)	誘導ディスカッション	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート						
評価方法及び評価基準	授業への参加度、議論への積極的参加、課題研究(レポート)の作成、プレゼンテーションから総合的に判断する。自らのキャリアデザインについて探求する姿勢が身に付いたか。									
課題等	授業時に提示する課題を行う。									
事前事後学修	授業時に提示された情報などをもとに、自ら情報を収集し、考えを深める。(週90分以上の事後学修を行うこと)									
教材教科書参考書	適宜資料配布									
留意点	授業はオンデマンド形式で行われる可能性がある。その場合は、事前に通知する。 6回以上欠席の場合、単位取得不可。									

科目名	キャリアデザインC		科目ナンバリング	L-CUCA9-02. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	科目コード	B54019		30時間						
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	神戸 直樹			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 大学生のキャリア教育の一環として、働くことの意味や、社会人となるための基礎知識を講義と実習で学ぶ。講義を聴講した上で各自の希望する企業等において就業体験（インターン）をする。実習前に事前レポートを作成する。実習後、実習日誌と事後レポートを作成し、報告会で発表する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	自らの将来について自分自身でキャリアデザインをしていくために、視野を拓け、必要な知識や技術を獲得する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			インターンシップまでの流れの確認と事前事後の発表						
第2回	キャリアのスタートアップ			キャリアとは。2年生からはじめること						
第3回	キャリアビジョンの構築			「働く」とは。未来について考える。						
第4回	インターンシップ基礎講座①			近年のインターンシップの傾向と参加方法						
第5回	インターンシップ基礎講座②			インターンシップに向けた情報収集と参加のマナー						
第6回	業界・企業研究(基礎)			企業研究の必要性和チェックポイント						
第7回	業界・企業研究(応用)			インターンシップに向けたGD練習						
第8回	インターンシップ基礎講座③			インターンシップに向けた企業研究(基礎)						
第9回	インターンシップガイダンス			就職課より提出書類や注意事項の説明						
第10回	インターンシップ基礎講座④			インターンシップに向けた企業研究(応用)						
第11回	インターンシップ事前発表			インターンシップ実習先の企業研究と志望動機・実習で身につけたいこと						
第12回										
第13回	インターンシップ実習			各企業・事業所などにおいて実習					夏休み中実習	
第14回										
第15回	インターンシップ事後報告会			インターンシップ経験に関して、意義や評価について発表する					夏休み終わり頃を予定	
授業方法(他 ディプロマ・ポリシー 参照)	実習、フィールド ワーク	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシ ート				
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、議論への積極的参加、課題研究(レポート)の作成、プレゼンテーションから総合的に判断する。自らのキャリアデザインについて探求する姿勢が身に付いたかがポイントである。									
課題 等	インターンシップの実施と事前・事後レポートの提出									
事前事 後学修	授業時に提示された情報などをもとに、自ら情報を収集し、考えを深める。週3時間以上の事後学修を行うこと。 7月中に受け入れ企業のマッチングをする									
教材 教科書 参考書	適宜資料配布									
留意 点	インターンシップ実施前に履修することが望ましい。インターンシップは夏休みに行く。 原則として、2週間以上参加のインターンシップに参加すること(1dayインターンシップは不可)。 インターンシップに行く前に必ず就職課に申し込み書類を提出すること。提出しない場合単位の対象にならない。									

科目名	キャリアデザインD		科目ナンバリング	L-CUCA9-03. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目コード	B54020	30時間							
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	神戸 直樹			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 社会において幅広い活躍の場を持つ文学部の学生が、自分自身の大学生活や職業人生、キャリアについて、自らが主体となって構想し、実現していくために、社会の動きを学びながら自分の将来像を明確にする。そして自らの持つ能力を活かすキャリアデザインの形成を進めていく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	自らの将来について自分自身でキャリアデザインをしていくために、視野を拓け、必要な知識や技術を獲得する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション		講義計画に関する説明・就職行事と就職情報室の説明							
第2回	企業研究・社会理解（1）		会社・企業の業態研究、社会状況など把握を通じて現代社会を理解する							
第3回	企業研究・社会理解（2）		会社・企業の業態研究、社会状況など把握を通じて現代社会を理解する							
第4回	企業研究・社会理解（3）		会社・企業の業態研究、社会状況など把握を通じて現代社会を理解する							
第5回	企業研究・社会理解（4）		会社・企業の業態研究、社会状況など把握を通じて現代社会を理解する							
第6回	企業研究・社会理解（5）		会社・企業の業態研究、社会状況など把握を通じて現代社会を理解する							
第7回	企業研究・社会理解（6）		会社・企業の業態研究、社会状況など把握を通じて現代社会を理解する							
第8回	自己分析・自己理解①		適性診断テストMatchplus受験と結果の振り返り							
第9回	自己分析・自己理解②		自己分析ツールの活用／「自分」について知る							
第10回	企業研究・社会理解(まとめ)		キャリアを考える。「働く」とは							
第11回	社会人としてのマナーと服装		就活時の服装等について（スーツの選び方・着方）							
第12回	自己分析・自己理解③		「自分」について文章にするワーク							
第13回	自己分析・自己理解④		「自分」を伝えるポイント							
第14回	自己分析・自己理解⑤		「自分」について話すワーク							
第15回	就活まとめ講座		3年生に向けた就職活動準備							
授業方法(ゼミナール、PBL等)	PBL(問題解決型学習)	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	授業への参加度、議論への積極的参加、課題研究(レポート)の作成、プレゼンテーション、振り返りシートから総合的に判断する。自らのキャリアデザインについて探求する姿勢が身に付いたかがポイントである。									
課題等	授業時に提示する課題を行う。振り返りシート。									
事前事後学修	授業時に提示された情報などをもとに、自ら情報を収集し、考えを深める。週3時間以上の事後学修を行うこと。									
教材教科書参考書	適宜資料配布									
留意点	6回以上欠席の場合、単位取得不可。									

科目名	キャリアデザインE		科目ナンバリング	L-CUCA9-04. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	B54021		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	神戸 直樹				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 社会において幅広い活躍の場を持つ文学部の学生が、自分自身の大学生活や職業人生、キャリアについて、自らが主体となって構想し、実現していくために、社会の動きを学びながら自分の将来像を明確にする。そして自らの持つ能力を活かすキャリアデザインの形成を進めていく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	自らの将来について自分自身でキャリアデザインをしていくために、視野を拡げ、必要な知識や技術を獲得する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	オリエンテーション			本学の就職状況・就職情報室・就職課の説明・就活スケジュール						
第2回	就活スタートアップ講座			就活スタートアップ(就活モデルと自己分析ワーク)						
第3回	インターンシップ&キャリア講座			企業・仕事探しの軸を仮でつくってみよう						
第4回	自己分析①			自分について知る(性格検査)						
第5回	企業・業界研究①			気になる業界・企業を知る						
第6回	企業・業界研究②			業界研究ワーク						
第7回	企業・業界研究③			業界研究ワーク						
第8回	着こなし講座			印象のいい身だしなみとスーツの選び方						
第9回	筆記試験・適性検査準備講座			模擬webテスト						
第10回	選考対策①			選考スケジュールの確認と準備						
第11回	企業・業界研究④			インターンシップで集めた情報の活用						
第12回	自己分析②			自分について文章で表現する						
第13回	選考対策②			選考書類を書いてみる						
第14回	選考対策③			模擬面接(自分について話す練習)						
第15回	質問力アップ講座			企業との接点での質問と効率的な夏休みの過ごし方						
授業方法(ゼミ、PBL、グループワーク、ペアワーク、資料記入、授業中のノート取り、リフレクションシート等)	PBL(問題解決型学習)	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	授業への参加度、議論への積極的参加、課題研究(レポート)の作成、プレゼンテーション、振り返りシートから総合的に判断する。自らのキャリアデザインについて探求する姿勢が身に付いたかがポイントである。									
課題等	授業時に提示する課題を行う。振り返りシート。									
事前事後学修	授業時に提示された情報などをもとに、自ら情報を収集し、考えを深める。週3時間以上の事後学修を行うこと。									
教材教科書参考書	適宜資料配布									
留意点	6回以上欠席の場合、単位取得不可。									

科目名	キャリアデザインF		科目ナンバリング	L-CUCA9-05. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	B54022		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	神戸 直樹				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 社会において幅広い活躍の場を持つ文学部の学生が、自分自身の大学生活や職業人生、キャリアについて、自らが主体となって構想し、実現していくために、社会の動きを学びながら自分の将来像を明確にする。そして自らの持つ能力を活かすキャリアデザインの形成を進めていく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	自らの将来について自分自身でキャリアデザインをしていくために、視野を広げ、必要な知識や技術を獲得する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業内容の説明・評価について						
第2回	就活実践講座①			夏インターン振り返り、視野を広げる						
第3回	就活スタートアップ講座			3年後期からの就職活動復習						
第4回	就活実践講座②			就活の軸について考える						
第5回	就活実践講座③			選考書類を書いてみる(長所・短所)						
第6回	メンタルヘルス			就活に関する相談、悩み、心のケアについて						
第7回	就活実践講座④			選考書類のポイントと就活のマナー						
第8回	就活実践講座⑤			選考書類を書く(自己PR)						
第9回	就活実践講座⑥			面接対策～模擬面接会に向けて～①実践						
第10回	就活実践講座⑦			面接対策～模擬面接会に向けて～②実践						
第11回	模擬面接会(企業・施設・公務員等)			模擬面接の実施(参加者はスーツ着用のこと。事前に企業研究が必要)						
第12回	直前期総まとめ講座①			いざ本番! 応募から入職までの流れと社会人マナー						
第13回	就職活動報告会(就活祭)			文4年内定者による就職活動報告						
第14回	就活実践講座⑧			選考書類を書く(志望動機)						
第15回	直前期総まとめ講座②			現状のチェックと2月末までにやることと今後の計画						
授業方法(フロンティアラーニング等)	PBL(問題解決型学習)	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	授業への参加度、議論への積極的参加、課題研究(レポート)の作成、プレゼンテーション、振り返りシートから総合的に判断する。自らのキャリアデザインについて探求する姿勢が身に付いたかがポイントである。									
課題等	授業時に提示する課題を行う。振り返りシート。									
事前事後学修	授業時に提示された情報などをもとに、自ら情報を収集し、考えを深める。週3時間以上の事後学修を行うこと。									
教材教科書参考書	適宜資料配布									
留意点	6回以上欠席の場合、単位取得不可。									

科目名	教職教養C		科目ナンバリング	L-CUCA9-12.U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	B54003		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	奥野 武志、山本 尚樹			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業は、現在の教員採用試験で課される教職教養の試験問題を題材として、採用する側がどのような意図で出題しているのかについてグループに分かれて議論する。そして、議論を通じて気づいたことを各自が文章化することを通じて、現在の教職のあり方について考察を深めて行くことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 現在の教員が身につけておくべき教養とはどのようなものか理解し、他者に説明できる。</p> <p>2) 教職教養の試験がどのような意図で課されているのか理解し、他者に説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	教育心理の問題 (1)			・ 心理学の歴史						
第2回	教育心理の問題 (2)			・ 学習						
第3回	教育心理の問題 (3)			・ 乳児期の発達 身体発達 認知発達						
第4回	教育心理の問題 (4)			・ 自我の発達 親子関係の発達 社会性の発達						
第5回	教育心理の問題 (5)			・ 教育評価						
第6回	教育心理の問題 (6)			・ 性格と適応						
第7回	教育心理の問題 (7)			・ 心理療法 学級集団						
第8回	教育法規の問題 (1)			・ 教育の基本理念 教育の目的・目標						
第9回	教育法規の問題 (2)			・ 日本国憲法 学校教育に関する法規						
第10回	教育法規の問題 (3)			・ 学校運営 学校保健・安全、学校給食 教科書・補助教材と著作権						
第11回	教育法規の問題 (4)			・ いじめ・不登校・児童虐待 児童生徒の懲戒と体罰						
第12回	教育法規の問題 (5)			・ 教職員						
第13回	教育法規の問題 (6)			・ 教育委員会						
第14回	教育時事の問題 (1)			・ 教育改革 学習指導要領 特別支援教育						
第15回	教育時事の問題 (2)			・ 生徒指導 学力調査 重要答申						
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <p>・ 平常点：100% グループワークへの参加度・振り返りの充実度を評価する。</p>									
課題等	<p>・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。</p> <p>・ 振り返りはteamsを通じて提出する。</p>									
事前事後学修	<p>・ 事前学修：指定された問題を解いて疑問点をまとめておく。</p> <p>・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材教科書参考書	<p>・ 教科書 『教職教養の要点理解 2026年度版』時事通信出版局、2024年 (ISBN:978-4788719507)</p> <p>『教職教養の演習問題 2026年度版』時事通信出版局、2024年 (ISBN:978-4788719514)</p>									
留意点	<p>・ 授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。</p>									

科目名	教職教養D		科目ナンバリング	L-CUCA9-13.U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	B54004		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	奥野 武志、山本 尚樹			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業は、現在の教員採用試験で課される教職教養の試験問題を題材として、採用する側がどのような意図で出題しているのかについてグループに分かれて議論する。そして、議論を通じて気づいたことを各自が文章化することを通じて、現在の教職のあり方について考察を深めて行くことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 現在の教員が身につけておくべき教養とはどのようなものか理解し、他者に説明できる。</p> <p>2) 教職教養の試験がどのような意図で課されているのか理解し、他者に説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	導入			・ 本科目のオリエンテーション						
第2回	教育原理の問題 (1)			・ 教育課程 教授と学習 学習指導						
第3回	教育原理の問題 (2)			・ 生徒指導						
第4回	教育原理の問題 (3)			・ 学校・学級 特別支援教育						
第5回	教育原理の問題 (4)			・ 人権教育						
第6回	教育原理の問題 (5)			・ 生涯学習、社会教育 安全確保 食育 情報教育						
第7回	教育原理の問題 (6)			・ 環境教育 学習評価						
第8回	学習指導要領の問題 (1)			・ 学習指導要領の変遷						
第9回	学習指導要領の問題 (2)			・ 各学校学習指導要領						
第10回	学習指導要領の問題 (3)			・ 道徳教育 特別活動						
第11回	学習指導要領の問題 (4)			・ 総合的な学習/探求の時間 外国語活動						
第12回	教育史の問題 (1)			・ 西洋教育史 (古代～近代)						
第13回	教育史の問題 (2)			・ 西洋教育史 (現代～重要人物の業績と著書)						
第14回	教育史の問題 (3)			・ 日本教育史 (古代～近代)						
第15回	教育史の問題 (4)			・ 日本教育史 (現代～重要人物の業績と著書)						
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <p>・ 平常点：100% グループワークへの参加度・振り返りの充実度を評価する。</p>									
課題等	<p>・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。</p> <p>・ 振り返りはteamsを通じて提出する。</p>									
事前事後学修	<p>・ 事前学修：指定された問題を解いて疑問点をまとめておく。</p> <p>・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材教科書参考書	<p>・ 教科書 『教職教養の要点理解 2026年度版』時事通信出版局、2024年 (ISBN:978-4788719507)</p> <p>『教職教養の演習問題 2026年度版』時事通信出版局、2024年 (ISBN:978-4788719514)</p>									
留意点	<p>・ 授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。</p>									

科目名	常識日本語 A		科目ナンバリング	L-CUCA9-20. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	B54007		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>社会人として求められる語彙力、読解力を高めるための授業。前者は辞書語彙と新聞語彙を含み、後者は抽象度の高い文章の読解と資料の読解を含む。プレゼン力養成のために、参加者が順番で新聞語彙解説を行う機会を設ける。なお、隔週で小テストを行う。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>「日本語検定」1級、「漢字検定」準1級、「ニュース検定」2級のレベルに到達する。また、公務員試験で出題される「資料読解問題」、「日本の伝統文化を総合的に学ぶ検定（伝検）」のいくつかも学修予定。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	辞書語彙			文学作品に親しみながら語彙を増やす						
第3回	辞書語彙②			文学作品に親しみながら語彙を増やす②						
第4回	新聞語彙－憲法と安全保障			語彙解説						
第5回	新聞語彙－人口減少社会			語彙解説						
第6回	新聞語彙－文化の保護と活用			語彙解説						
第7回	新聞語彙－日本経済の行方			語彙解説						
第8回	新聞語彙－貿易			語彙解説						
第9回	新聞語彙－世界秩序			語彙解説						
第10回	新聞語彙－情報社会			語彙解説						
第11回	新聞語彙－先進医療と倫理			語彙解説						
第12回	新聞語彙－変わる食生活			語彙解説						
第13回	文章読解			入社試験レベルの文章を読む						
第14回	資料読解			図表を使った文章を読む						
第15回	まとめ			全体のまとめ						
授業方法(フ ォンド・フ ォイ ブ・ラーニン グ 等)	PBL (問題解決型 学習)		クイズ、小テスト	理解度チェック						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（40%）、小テスト（60%）。テストの評価は正解獲得点数によって行う。									
課題 等	小テストは実施翌週に返却。									
事前事 後学修	小テスト対策に3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	「でる順×分野別 漢検問題集準1級 新装版」（旺文社、本体1485円、ISBN978-4010924532）									
留意 点	特になし。									

科目名	小論文演習		科目ナンバリング	L-CUCA9-22. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	B54009		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 就職活動を念頭に置き、長文の執筆を実習形式で学んでいく。これにより読み手にとって説得力のある文章を執筆する能力や、論証の根拠を探る能力を身につける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 論証の根拠となる情報を収集できるようになる。 2) 根拠に基づきつつ適切な論理展開で文章を執筆できるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。						
第2回	アカデミック・ライティング（1）			レポートの書き方を復習する（論述の構成、フォーマット）。						
第3回	アカデミック・ライティング（2）			レポートの書き方を復習する（引用方法）。						
第4回	アカデミック・ライティング（3）			レポートの書き方を復習する（論証に焦点をあてる）。						
第5回	文章作成実践：キャリア形成（1）			自分自身の特性やこれまでの活動をまとめる。					PBL	
第6回	文章作成実践：キャリア形成（2）			卒業後自分が就きたい業種、職種について考える。					PBL	
第7回	文章作成実践：キャリア形成（3）			卒業後自分が就きたい業種、職種について調査する。					PBL	
第8回	文章作成実践：キャリア形成（4）			これまでの調査などを踏まえ志望理由書を書いてみる。					PBL	
第9回	文章作成実践：キャリア形成（5）			教員の指導のもと志望理由書を推敲する。					PBL	
第10回	文章作成実践：課題解決の提案（1）			自らが設定した業界、職種の現状を調査する。					PBL	
第11回	文章作成実践：課題解決の提案（2）			さらに調査し、それらの内容をまとめる。					PBL	
第12回	文章作成実践：課題解決の提案（3）			調査内容から今後解決すべき課題を設定する。					PBL	
第13回	文章作成実践：課題解決の提案（4）			さらに調査し課題の解決策を考える。					PBL	
第14回	文章作成実践：課題解決の提案（5）			解決策を提示し、これまでの内容を構成し、文章にまとめる。					PBL	
第15回	文章作成実践：課題解決の提案（6）			教員の指導のもと作成した文章を推敲する。					PBL	
授業方法(注1) PBL(問題解決型 学習)										
評価 方法及び 評価 基準	平常点（授業の参加態度、作業経過における成果物）40%、課題提出物60%									
課題 等	毎回、調査、文章作成課題を課す。									
事前 事後 学修	上述の通り毎回課題を随時だすので、確実にこなすこと。									
教材 教科書 参考書	必要な資料は適宜配布する。									
留意 点	特になし									

科目名	実践英語 C (TOEIC)		科目ナンバリング	L-CUCA9-32. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	科目コード	B54012		30時間						
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	野呂 佐枝子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>この授業では、留学や就職の際に英語能力を示すものとして日本でよく知られているTOEIC®L&Rテストの形式や傾向を理解しより高いスコアを得ることを目標として、TOEIC®テストの基本的知識から実践問題まで幅広く取り組んでいきます。前期はスコア400点から500点を旨とする入門的な内容のテキストを、後期はスコア600点以上を旨とするテキストを使用します。前期受講者はぜひ後期の受講もお勧めします。また、基本的な内容は常に繰り返し説明していますので、入門の方でも後期からの受講が可能です。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>まずはTOEIC®テストの形式に慣れ、パート7までであるそれぞれのパートの問題の特徴をつかむ。基本問題や模擬TOEIC、また実際のTOEIC®テストを受験することにより、自分の弱点や不足している能力を認識してそれを向上させ、スコアアップにつなげていく。自分で目標のスコアを決めて、それに到達するよう邁進してください。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			TOEIC®テストとはどのようなものか、その形式と内容について						
第2回	Unit 1			Unit 1				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第3回	Unit 1およびUnit 2			Unit 1およびUnit 2				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第4回	Unit 2			Unit 2				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第5回	ボキャブラリー&文法 #1			ボキャブラリービルディングと文法（プリント使用）				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第6回	Unit 3			Unit 3				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第7回	Unit 3およびUnit 4			Unit 3およびUnit 4				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第8回	Unit 4			Unit 4				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第9回	ボキャブラリー&文法 #2			ボキャブラリービルディングと文法（プリント使用）				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第10回	ここまでのまとめと中間テスト			TOEIC®テスト形式の試験およびボキャブラリーテスト						
第11回	Unit 5			Unit 5				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第12回	Unit 5およびUnit 6			Unit 5およびUnit 6				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第13回	Unit 6			Unit 6				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第14回	ボキャブラリー&文法 #3			ボキャブラリービルディングと文法（プリント使用）				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第15回	期末試験と前期のまとめ			期末試験と前期のまとめ						
授業方法(予習・復習・アクティビティ等)	クイズ、小テスト	グループワーク	ペアワーク	各ユニットの最初にある「Warm-up」(Listening)と「Vocabulary Build-up」(Reading)は、クイズで出題予定。テキストの設問は、ペアワーク、グループワークの場合あり。						
評価方法及び評価基準	<p>毎回の授業の平常点(20-30%)、および各種クイズ、テキストの設問など(20-30%)あわせて50%</p> <p>中間試験および期末試験あわせて 50%</p> <p>授業期間中にTOEIC®テストを受けた場合、その証明となるもの(スコアのコピーなど)を提出すれば加点(ボーナス点)</p> <p>授業への参加度、貢献度、協力度(以上平常点)と各種小テスト、および2つの試験(中間、期末)のすべてを合計した総合評価とする。</p>									
課題等	<p>次の授業の予習を必ずやってくるのが毎回の課題です。</p> <p>また、実際にTOEIC®テストを受けたり実際の問題を解いてみて、自分の弱点を認識し、問題集などで補強すること。</p>									
事前事後学修	<p>予習は必須です。予習しないで授業に出ることはできません。また、テキストの設問は毎回全員に当たります。授業の後には、理解できないところがないように復習しておいてください。</p>									
教材教科書参考書	<p><i>Welcome to the TOEIC® L&R Test - New Edition</i>-(『新訂版 TOEIC® L&Rテストへようこそ』)、北原良夫、朝日出版社、2020。ISBN 978-4-255-15649-1</p>									
留意点	<p>高校時代の英文法の参考書でも大丈夫ですので、何か文法の参考書を用意すること。また、テキストの他に、TOEIC®テストの単語集や問題集などを併用して普段からコツコツと努力をしてください。</p> <p>授業中のスマートフォンの使用は原則として禁止します。詳細は初回の授業で説明しますので、必ず出席してください。</p>									

科目名	実践英語 D (TOEIC)		科目ナンバリング	L-CUCA9-33. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	B54013		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	野呂 佐枝子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 この授業では、留学や就職の際に英語能力を示すものとして日本でよく知られているTOEIC®L&Rテストの形式や傾向を理解しより高いスコアを得ることを目標として、TOEIC®テストの基本的知識から実践問題まで幅広く取り組んでいきます。前期はスコア400点から500点を目標とする入門的な内容のテキストを、後期はスコア600点以上を目指すテキストを使用します。前期受講者はぜひ後期の受講もお勧めします。また、基本的な内容は常に繰り返し説明していますので、入門の方でも前期に受講しなくても後期からの受講が可能です。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>まずはTOEIC®テストの形式に慣れ、パート7までであるそれぞれのパートの問題の特徴をつかむ。基本問題や模擬TOEIC、また実際のTOEIC®テストを受験することにより、自分の弱点や不足している能力を認識してそれを向上させ、スコアアップにつなげていく。自分で目標のスコアを決めて、それに到達するよう邁進してください。</p>									
授業計画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	オリエンテーション			TOEIC®テストとはどのようなものか、その形式と内容について						
第2回	Unit 1			Daily Life				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第3回	Unit 1およびUnit 2			Daily Life & Travel				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第4回	Unit 2			Travel				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第5回	ポキャブラリー&文法 #1			ポキャブラリービルディングと文法（プリント使用）				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第6回	Unit 3			Eating Out				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第7回	Unit 3およびUnit 4			Eating Out & Shopping				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第8回	Unit 4			Shopping				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第9回	ポキャブラリー&文法 #2			ポキャブラリービルディングと文法（プリント使用）				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第10回	ここまでのまとめと中間テスト			ここまでのまとめと中間テスト						
第11回	Unit 5			Entertainment				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第12回	Unit 5およびUnit 6			Entertainment & Housing				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第13回	Unit 6			Housing				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第14回	ポキャブラリー&文法 #3			ポキャブラリービルディングと文法（プリント使用）				ペアワーク、グループワークの場合あり		
第15回	期末試験と前期のまとめ			期末試験と前期のまとめ						
授業方法(予 修・履修 等)	クイズ、小テスト	グループワーク	ペアワーク	各ユニットの最初にある「Warm-up」(Listening)と「Vocabulary Build-up」(Reading)は、クイズで出題予定。テキストの設問は、ペアワーク、グループワークの場合あり。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>毎回の授業の平常点（20-30%）、および各種クイズ、テキストの設問など（20-30%）あわせて50% 中間試験および期末試験あわせて 50% 授業期間中にTOEIC®テストを受けた場合、その証明となるもの（スコアのコピーなど）を提出すれば加点（ボーナス点） 授業への参加度、貢献度、協力度（以上平常点）と各種小テスト、および2つの試験（中間、期末）のすべてを合計した総合評価とする。</p>									
課題 等	<p>次の授業の予習を必ずやってくるのが毎回の課題です。 また、実際にTOEIC®テストを受けたり実際の問題を解いてみて、自分の弱点を認識し、問題集などで補強すること。</p>									
事前 事後 学修	<p>予習は必須です。予習しないで授業に出ることはできません。また、テキストの設問は毎回全員に当たります。授業の後は、理解できないところがないように復習しておいてください。</p>									
教材 教科書 参考書	<p><i>New Heights for the TOEIC® L&R Test</i> (『TOEIC® L&R 600点の壁を超える実践ストラテジー』), Robert Hickling/Jiro Watanabe, Cengage Learning, 2025, ISBN 978-4-86312-433-2</p>									
留意 点	<p>高校時代の英文法の参考書でも大丈夫ですので、何か文法の参考書を用意すること。また、テキストの他に、TOEIC®テストの単語集や問題集などを併用して普段からコツコツと努力をしてください。 授業中のスマートフォンの使用は原則として禁止します。詳細は初回の授業で説明しますので、必ず出席してください。</p>									

科目名	基礎数学B(SPI)		科目ナンバリング	L-CUCA9-41.U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	B54015		30時間				
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	大塚 敬義			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 日々の生活に必要な数学を念頭に置きながら、就職試験でよく出題される基本的な問題の演習と解説を繰り返すことによりSPIに対応する能力の向上をめざす。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>①SPI対策として、正確に問題を解くことができる。 ②SPI対策として、多くの題数を解くことができる。 ③筆算で計算を解くことができる。 CBT方式のSPIは普及しつつあるも、テストセンターなどの会場に向いて受験をする方式の場合は、計算用具としての電卓やスマートフォンの使用が禁止されている場合も多々あり、特に公務員試験でその傾向が顕著であるため、筆算での計算力養成を目標とする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			簡単な問題に挑戦して算数・数学を思いだしてみよう！						
第2回	濃度 ①			濃度に関する基本的な問題を理解する。						
第3回	濃度 ②			異なる濃度の食塩水を混ぜる等、濃度に関する応用問題を理解する。						
第4回	速さ・距離・時間 ①			距離が一定の場合の速さや時間を求める。						
第5回	速さ・距離・時間 ②			通過、追い越しに関する問題を理解する。						
第6回	速さ・距離・時間 ③			進む向きに関する問題演習を行う。						
第7回	第1回小テスト実施（実施後に解説実施）			第2回から第6回までの範囲より出題する。						
第8回	物の値段と個数			合計金額・原価・定価・利益に関する問題演習を行う。						
第9回	定価・原価・利益			合計金額・原価・定価・利益に関する問題演習を行う。						
第10回	割合と値段			割合で金銭を考えて考える問題を理解する。						
第11回	第2回小テスト実施（実施後に解説実施）			第8回から第10回までの範囲より出題する。						
第12回	仕事算			全体の仕事量や一人当たりの仕事量に関する問題演習を行う。						
第13回	表や資料の読み取り			表や資料から必要な情報を選び出し、答えを導き出す。						
第14回	順列・組み合わせ、確率、集合（簡単な問題に挑戦）			順列組み合わせ、事柄が起きる確率、ベン図（集合）の簡単な問題を理解する。						
第15回	第3回小テスト実施、数的理解全体のまとめ			第12回、第13回、第14回の範囲より出題する。						
授業方法(付 属資料、77頁 ア・ラーニング 等)	理解度チェック									
評価 方法 及び 評価 基準	毎回の授業への取り組み姿勢・提出物25%、第1回小テスト25%、第2回小テスト25%、第3回小テスト25%の比率で評価する。 事前準備、事後学習の状況も評価の対象とする。									
課題 等	授業内で課題が出る（紙媒体で解答用紙を受け取り、途中計算の結果を自筆で記入の上で提出）。当科目では課題の提出期限が授業時間内の90分間のみである。									
事前事 後学修	2単位科目では週当たり3時間、実習形式の科目は90分の授業外の学修内容が必要である。 事前学習：シラバスの確認、教科書の当該箇所の予習。与えられたテーマについて自分なりの情報収集をしておくこと。 事後学習：授業中に学んだ機能・操作方法を、テキストと照らし合わせながら復習して確認すること。課題も提出のこと。									
教材 教科書 参考書	【教科書】『2027年度版 ドリル式 SPI問題集 (NAGAOKA就職シリーズ)』、永岡書店、ISBN 978-4522460368									
留意 点	上記教科書を購入すること。復習をきちんとして理解できないところを残さないようにすること。全15回のうち授業中のみ実施する合計3回の小テストは授業実施当日の出席者のみ受験可能である。									

科目名	基礎数学C(数学検定)		科目ナンバリング	L-CUCA9-42. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目コード	B54016		30時間						
区分	キャリアサポート等科目	選択	担当者名	大塚 敬義			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>数学検定3級の問題を通じて、社会人基礎力として要求されるレベルの数学に再チャレンジする。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	数学検定試験3級(中3レベル)の数学の力が身に付く。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス+お試し実力テスト		ガイダンス お試し実力テスト							
第2回	式の展開・因数分解		多項式と多項式の乗法 式の因数分解							
第3回	数の計算/文字式		正負の数の加法、減法/累乗を含む正・負の数の四則演算/平方根の加減/かっこのある平方根の式の計算/文字式						復習テスト	
第4回	式の計算		多項式の加法・減法/分数の形の式の加法・減法/単項式の乗法・除法/等式変形						復習テスト	
第5回	1次方程式・2次方程式		1次方程式の解き方/分数係数の1次方程式/2次方程式の解き方						復習テスト	
第6回	連立方程式/方程式		代入法/加減法/方程式文章題						復習テスト	
第7回	比例と反比例・関数 $y=ax^2$		比例と反比例/関数 $y=ax^2$						復習テスト	
第8回	関数		関数の応用問題						復習テスト	
第9回	図形の角		平行線と角/多角形の角/三角形の内角と外角の性質/円周角の定理						復習テスト	
第10回	三角形と四角形/図形の相似・三平方の定理		三角形の合同条件と平行四辺形の性質/図形の相似・三平方の定理						復習テスト	
第11回	空間図形		空間図形						復習テスト	
第12回	データの分布/確率		(分布の)範囲と度数分布表/同じ出方が繰り返される場合の確率						復習テスト	
第13回	確率/データの活用		表を利用してもれなく調べる/データの活用/四分位数と箱ひげ図						復習テスト	
第14回	標本調査		標本調査						復習テスト	
第15回	期末試験		試験解答 (この授業は最終週に行う)							
授業方法(予 演習、70分 ア・ラウンド 等)	理解度チェック									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への取り組み(45%)・前回授業内容の復習テスト(25%)・期末試験(30%)</p> <p>試験は、数検3級を解く実力を試す問題を出す。試験を受けなかった場合、未履修扱いとなる。</p>									
課題 等	授業各回の復習テスト、期末試験									
事前事 後学修	<p>2単位科目では週当たり3時間、実習形式の科目は90分の授業外の学修内容が必要である。</p> <p>事前学習：シラバスの確認、教科書の当該箇所の予習。与えられたテーマについて自分なりの情報収集をしておくこと。</p> <p>事後学習：授業中に学んだ機能・操作方法を、テキストと照らし合わせながら復習して確認すること。課題も提出のこと。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】『ユーキャンの数学検定ステップアップ問題集 3級 (第4版)』自由国民社(本体1,000円+税) ISBN 9784426614775</p> <p>※ 級を間違えないこと ※(第3版)以前は内容が違うため不可。</p>									
留意 点	上記教科書を購入すること。復習をきちんとして理解できないところを残さないようにすること。ほぼ毎回「前回授業内容の復習テスト」を行う。15週目に期末試験を行い、最終回に上記第15回の内容を行う予定である。									